川崎病の診断基準を満たしたエルシニア感染症症例

馬場　清，武田修明，田中陸男

要約：エルシニア感染症と診断した症例329例の中，川崎病の診断基準を満たした症例を29例経験した。29例全例に，心エコー図検査による経過観察が行なわれたが，６例（21％）に冠動脈の拡張性病変を認めた。冠動脈造影検査で明らかな冠動脈病変を確認し得たのは３例であった。川崎病の原因が不明な現在，エルシニア感染症と考えられても，川崎病の診断基準を満たす例に対しては，心エコー図検査は必須であり，治療も川崎病に準じて行なう必要があるものと考えられる。

見出し語：エルシニア感染症，川崎病，心エコー図検査，冠動脈造影検査，冠動脈病変

【目的】エルシニア感染症と診断した症例の中に，川崎病の診断基準を満たす例が存在する。川崎病の原因が不明である現在，エルシニア感染症と川崎病との因果関係を明らかにすることも重要であるが，一方，臨床的には，川崎病の後遺症としての冠動脈障害についても明らかにしておくことが重要である。今回は，エルシニア感染症と診断した症例中，川崎病の診断基準を満たした症例の頻度および冠動脈病変の発生率について検討したので報告する。

【対象および方法】（表１）1981年より1989年までに，当科でエルシニア感染症と診断した症例は329例であった。川崎病の診断基準４項目以上を有する症例および発熱が５日間以上持続した症例を中心に，157例に心エコー図検査を施行し，心病変の有無について検討した。

【結果】（表１および図１）川崎病の診断基準を満たした症例は，29例（９％）であった。年令および冠動脈障害を有した例の分布は，図２の如くであった。29例全例に心エコー図検査で経過が観察されており，６例（21％）に冠動脈の拡張性病変を認めた。冠動脈造影検査は６例に施行し，３例に造影上冠動脈病変を確認できた。

【症例】冠動脈造影検査で冠動脈瘤を認めた１例を呈示する。発症時年令が２才３カ月の男児で，図３に経過を示した。川崎病の診断基準の６項目

倉敷中央病院　小児科
Department of pediatrics, Kurashiki Central Hospital

を満たし，入院した時点よりアスピリンを投与した。発症10日目より心エコー図で冠動脈病変を認めたため，ジピリダモールの投与を開始した。この症例では，エルシニア抗体価ⅡAの上昇を認めたが，便培養ではエルシニア菌を検出できなかった。図2に冠動脈造影所見を示す。上段は左冠動脈で，左前下行枝および左回旋枝に動脈瘤を，下段は右冠動脈で，中央部に紡錘形の動脈瘤を認めた。この例では，1年後に再造影検査を施行したが，冠動脈瘤は造影上完全に退縮した。

【考案】エルシニア感染症は多彩な症状を示すことがあり，中には川崎病の臨床経過を示す症例もあることが報告されている。当科では，1981年より，川崎病の診断基準を満たしたエルシニア感染症の症例を，どのように管理すべきか検討する必要があると考えて，この研究を行なった。まず，エルシニア感染が川崎病の原因となりうるかどうかについてであるが，結論は得られていない。しかし，両者の合併，あるいは発症機転への関与はありうるのではないかと考えている。一方，川崎病の診断基準を満たした場合，もし，冠動脈瘤を生じうるのであれば，川崎病に準じた治療を行う必要があるので，川崎病の診断基準の4項目以上を有する例，発熱が5日間以上持続した例を中心に，心エコー図検査による検討を行った。その結果，川崎病の診断基準を満たした例の21％に冠動脈障害が認められた。この発生率は，川崎病における冠動脈障害の発生率と同等と考えられる。したがって，川崎病の診断基準を満足する症例に対しては，積極的に川崎病としての治療を施行すべきと考える。呈示した症例は，免疫グロブリン大量療法を施行していない時期の例であるが，現在は，エルシニア感染症が疑われても，川崎病の診断基準を満たす症例には，必要に応じて，この治療法を施行している。また，臨症的に，エルシニア感染症と川崎病を区別しようという報告もみられるが，少くとも，川崎病の診断基準を有するエルシニア感染症症例と川崎病症例を鑑別することは，不可能であった。したがって，この問題の解決は，原因究明に待たざるを得ないが，現時点では，川崎病の後遺症としての冠動脈病変の発生防

総数	329例
川崎病の診断基準を満たした例	29例
心エコー図検査を施行した例	157例
（冠動脈の拡張性病変を認めた例	6例）
心嚢液貯瘤	16例）
冠動脈造影検査施行例	6例
（造影上冠動脈障害を認めた例	3例）

表1　エルシニア感染症（1981－1989）

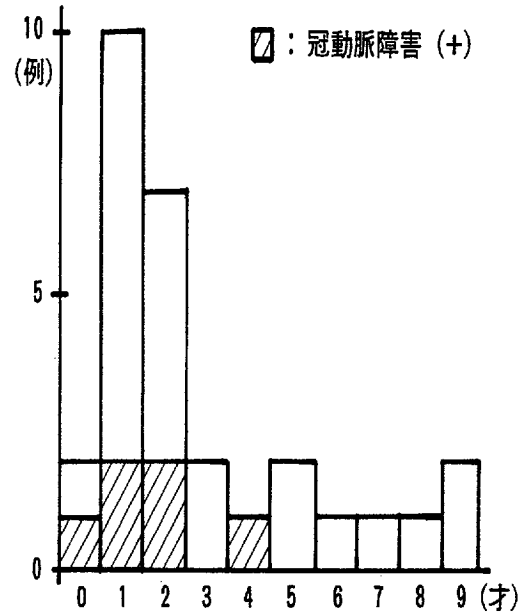

図1　年令分布

止に全力をあげなければならないと考える。

【まとめ】(1) 1981年から1989年の10年間に329例のエルシニア感染症を経験した。(2)川崎病の診断基準を満たした例は29例で，その中の6例に冠動脈病変を認めた。(3)冠動脈造影所見で3例に冠動脈病変を証明できた。(4)現時点では，川崎病の診断基準を満たす症例は，川崎病に準じた治療を行うべきである。

図 2

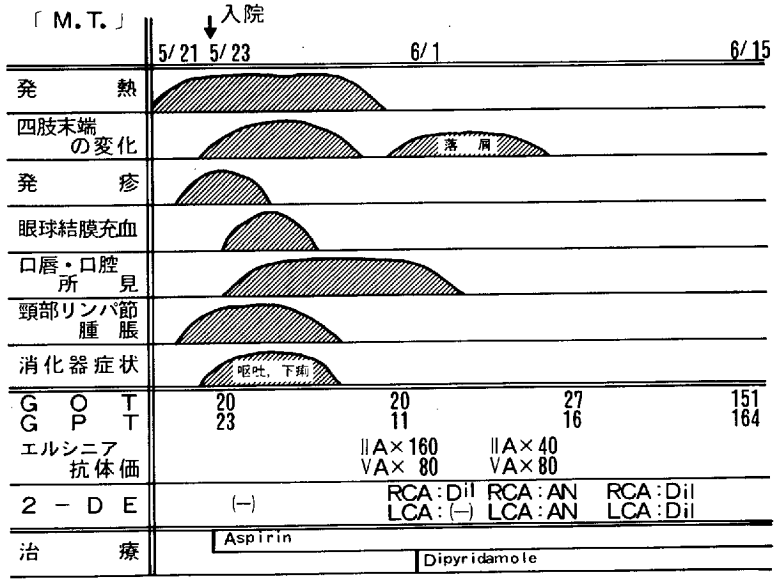

図 3

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:エルシニア感染症と診断した症例329例の中,川崎病の診断基準を満たした症例を29例経験した。29例全例に,心エコー図検査による経過観察が行なわれたが,6例(21%)に冠動脈の拡張性病変を認めた。冠動脈造影検査で明らかな冠動脈病変を確認し得たのは3例であった。川崎病の原因が不明な現在,エルシニア感染症と考えられても,川崎病の診断基準を満たす例に対しては,心エコー図検査は必須であり,治療も川崎病に準じて行なう必要があるものと考えられる。